

ささえ、ささえられて
ホッと、安心～みんなの笑顔

知ってほしい 福祉の話

このコーナーでは、福祉の制度やよくある質問についてお知らせします。

第16回目は【徘徊高齢者探索システム】についてです。

福祉課では、認知症による徘徊が心配される高齢者を介護している方に、探索機の貸し出しを行っています。探索機を身に着けることにより、認知症高齢者の行方が分からなくなった場合、その位置をご家族の方に知らせることができ、早期の発見と保護、事故の防止を図ります。

◆探索機とは

徘徊が心配な高齢者に携帯電話サイズで50gほどの軽量の機器を携帯してもらうことで、GPS（衛星による位置情報検索装置）と携帯電話の通話網により早期の発見を可能にする機器です。

◆利用できる方

認知症があり、要支援1以上と認定された高齢者と同居し介護している方に、機器を貸し出します。

利用できるかどうか詳しい基準は、福祉課にお問い合わせください。

◆費用

探索機を利用する費用は下表の通りです。毎月の基本料金と、緊急時に事業者に搜索を依頼した場合の現場急行料が利用者の負担になります。

基本料金 (1カ月当たり)	生活保護世帯または生計中心者の前年所得税が非課税の世帯	0円
	生計中心者の前年所得税課税額が14万円以下の世帯	250円
	生計中心者の前年所得税課税額が14万円を超える世帯	500円
現場急行料	システム機器を貸与した事業者に搜索を依頼した場合	1回1万円 (1時間以内)

◆申し込み方法

福祉課に備え付けの申請書に必要事項を記入・押印の上、同課へ提出してください。

問い合わせ 福祉課高齢者係（内線160）

一人ひとりが人権を
尊重する社会を目指して

人権のひろば



【人権に関する市民意識調査の結果】

前回は、「高齢者」「障がい者」の人権についてお知らせしました。今回は「同和問題」と「アイヌの人々の人権」についてお知らせします。

※調査結果は、市ホームページでもご覧になれます。

同和問題

同和問題について特に問題だと思うことは、上位から

同和問題についての理解や認識が十分でない	31.8%
同和問題のことを知らない	27.7%

の順になっています。（回答数1,070・複数回答）

次に、同和問題の解決に必要なことについて尋ねたところ、上位から、「分からない」（33.5%）「学校教育・生涯学習を通じて同和教育を行う」（22.9%）「同和問題について特に触れなければ、自然となくなる」（18.0%）の順になっています。

「同和問題について特に触れなければ、自然となくなる」という回答を年齢別に見ると、高年齢ほど多くなっている点が特徴的です。

※同和問題：近代以前に形成された身分階層構造に基づく差別。部落問題、部落差別問題ともいわれる。

アイヌの人々の人権

アイヌの人々の人権問題について特に問題だと思うことは、上位から

分からない	40.1%
アイヌの人々についての理解や認識が十分でないこと	35.0%

の順になっています。（回答数1,070・複数回答）

「アイヌの人々についての理解や認識が十分でないこと」と回答した方を年齢層で見ると、「20歳代」「30歳代」「50歳代」で4割を超えています。

一方で、高齢者層になると、「分からない」と回答する割合が多くなっています。

※アイヌ：主として北海道に居住する日本の先住少数民族